



数年前まで近所の公園を散歩していたといいますが、「耳が少し遠いほかは元気ですよ」と家族の方が話していました。

安平町の長寿ナンバーワン
安平町最高齢者の熊谷義雄さんは明治40年3月生まれの100歳。昨年、総理大臣から長寿の記念品が贈られ、現在は苫小牧に住むご家族と暮らしています。



国体に出場する選手が町長を表敬訪問

9月29日から開催される秋田わか杉国体に安平町から出場する鍋谷潤一さん(写真右端・自転車競技)、大橋祐翔君(早来中3年、カヌー競技、写真右から3番目)、門別謙樹君(早来中3年、カヌー競技、写真左端)が9月27日に役場早来庁舎を訪れ、出発のあいさつをしました。

このほか追分高等学校3年の山口隼人君も北海道代表に選ばれています。



北大生が安平町の活性化について語る

北海道大学の学生たちが、9月15日から17日にかけて、安平町の観光名所や農家訪問を行うなど、町内を見て回り、安平町の地域活性化に向けた意見提案を行いました。
雪だるまや赤いひまわり、馬産地、メロンなどの観光資源は多いが単発でPR不足、町の名産品を買おうとしてもどこで買えるのか分かりづらいといった感想がありました。
安平町の将来に向けた地域活性化案として、ご当地グルメの開発による名産品のPR、雪だるまを線路沿線に並べる事業、普段安平町から見えない

牧場風景や山並などの写真集の作成や映像化による町のアピール。町外者の農業体験事業、将来を担う子供達が自分の町に愛着心を持つて自慢できるような魚卵放流の拡大事業や小中高生を交えたジュニアキャンプなどの体験事業という案から、馬産地を活かしてエアギターならずエア競馬を行うなど、安平町内での交流・親睦を促進できるような事業が提案され、学生も一緒に関わっていききたいと活発な意見が出ていました。

19年8月ていあんについて

内容 「記事の内容を精査して印刷物の件数を減らす対策を進めてほしい。それにより、資源の無駄の解消につながる。また横の連絡を密にして親しまれる広報づくりをしてほしい」という提案が役場に寄せられました。〈提案者無記名〉

回答 町としては、昨年4月から配布物を減らすように全庁的に取り組んできました。記事はできるだけ広報紙や笑顔に掲載するようにしたり、両面印刷をするように努めております。役場以外にも公共的団体などからの印刷物も一緒に配布されている状況なので件数が増えたと感じることも考えられます。いずれにせよ今回は無記名によるご意見でしたので、何をどのように改善すべきか確認ができませんでした。資源の無駄と思われないように努めていきたいと考えています。

安平町では町内に提案箱を10カ所設置しています。また『ていあんくんメール』を設け、皆様のご提言などを行政に反映するよう努めていますが、最近無記名による投稿が多くなりました。

ていあんくんには必ず氏名と連絡先を記載してください。提案制度については、企画課広報広聴係にお問合せください。☎2751